

## 米価下落に対する緊急対策を求める要望書

京都府南丹市は、水田面積率が9.2%と全国平均を大きく上回り、農業が地域経済を支える基幹産業となっており、中でも米は農業産出額の第1位を占め、地域経済活性化の重要な役割を担っている。

しかし、前年産米の過剰感から新米が安値での取引となっており、2014年産米の米生産農家に対する概算金も、どの銘柄を取ってみても前年対比で60キログラム当たり、3,000円以上の引き下げとなり、過去最低の水準になっている。

一方、8月の長雨や日照不足による収量・品質の低下等に加え、農業資材等が高騰し、米生産に非常に厳しい年となっている。

農業経営は圧迫されており、販売収入が生産費を大きく下回るという採算ラインを割り込む事態になり、販売農家から生産し続けられる価格ではないと悲鳴があがっている。

ここ数年来、生産費を大幅に下回る米価が続いている中で、さらなる米価の暴落は、農家の生産意欲を後退させ、離農の増加が急激に進み、荒廃農地の増加や集落の衰退を招くことが懸念される。引いては、日本農業の根幹である稲作の存続を危うくするものであり、国民への主食の安定供給に支障をきたしかねない。また、政府が重点課題としている「地方創生」に逆行するものである。

こうした状況を踏まえ、国におかれては、米の生産を確保し地域農業を維持発展する観点から、農業者個別所得補償制度（10アール当たり15,000円）の復活など、米価の下落に対する緊急対策を講じられるよう強く求めるとともに、米の生産者に対する農業支援の強化を図るよう強く要望する。

平成26年11月21日

農林水産大臣 西川 公也 様

南丹市農業委員会

会長 野中 一二三

## 米価下落に対する緊急対策を求める要望書

南丹市は、水田面積率が92%と京都府平均を大きく上回り、農業が地域経済を支える基幹産業となっており、中でも米は農業産出額の第1位を占め、地域経済活性化の重要な役割を担っている。

しかし、前年産米の過剰感から新米が安値での取引となっており、2014年産米の米生産農家に対する概算金も、どの銘柄を取ってみても前年対比で60キログラム当たり、3,000円以上の引き下げとなり、過去最低の水準になっている。

一方、8月の長雨や日照不足による収量・品質の低下等に加え、農業資材等が高騰し、米生産に非常に厳しい年となっている。

農業経営は圧迫されており、販売収入が生産費を大きく下回るという採算ラインを割り込む事態になり、販売農家から生産し続けられる価格ではないと悲鳴があがっている。

ここ数年来、生産費を大幅に下回る米価が続いている中で、さらなる米価の暴落は、農家の生産意欲を後退させ、離農の増加が急激に進み、荒廃農地の増加や集落の衰退を招くことが懸念され、引いては、世界に誇る観光地、京都の田園風景を一変するものであり、京都経済に与える影響は大きい。

こうした状況を踏まえ、京都府におかれては、米の生産を確保し地域農業を維持発展する観点から、農業者個別所得補償制度（10アール当たり15,000円）の復活など、米価の下落に対する緊急対策を講じられるよう国に強く要望いただくとともに、京都府の施策としても米の生産者に対する農業支援の強化を図られるよう強く要望する。

平成26年11月21日

京都府知事 山田 啓二 様

南丹市農業委員会

会長 野中 一二三